

IVSI2017 白馬大会 日本ワークショップ報告書

報告者 松沢 寿

日本チームは、研修テーマ「基礎パラレルターンへの指導の展開」のデモンストレーションを行い、各班に分かれ約2時間のワークショップを行った。

班構成は以下の通り。参加人数は約70名。

- 1班（独語）・・・栗山大樹、栗山未来、徳竹 剛
- 2班（英語）・・・丸山貴雄、金子あゆみ
- 3班（英語）・・・松沢 寿、青木美和
- 4班（英語）・・・太谷敏也、青木哲也

概要：

1998年長野オリンピックのDHで使用されたコースを、各班コースガイドを行いながらスタート地点よりワークショップを行った。当日は天候も良好で、白馬の山々の紹介も合わせて行い「JAPAN ALPS」を堪能していただいた。DHコースのヘルマン・マイヤー選手のコースアウト地点では、各国のスキーヤーからのリアクションが大きかった。また黒菱、兎平のコブコースを滑り、パウダーとはまた違う日本の雪質とゲレンデでフリースキーを楽しんだ。

各班とも日本の研修テーマ「基礎パラレルターンへの指導の展開」と「パラレルターンの指導の展開」を各国のスキーヤーと研修を行った。前回のインタースキーで発表していることもあり、ポジティブな意見交換が行われた。日本チームの研修テーマについては、「制動」から「推進」へ変化していく展開が多く、各国それぞれの理解が深まりスムーズな研修が行われていた。「パラレルターンの指導の展開」については、各国のゲレンデ状況や対象スキーヤー、レベルによって様々な見解があり、実際の指導の現場では指導者が受講者に対して「状況に合わせられる指導」が必要であるという意見が各班からあげられた。

IVSIテーマ「Snow sports spirit worldwide」にふさわしく「技術発展」「環境」「指導方法」など各国のワークショップに引き続き、期間中を通して第2部のパーティーなどでも更にコミュニケーションを深め、「日本のスキー」を文化も含め幅広くプレゼンすることができた。